

# くすのきだより



令和5年5月31日  
来迎寺小学校

## コロナ禍の日々を教育に生かす

教務主任 永田 基子

新型コロナウイルス感染症が5類相当の扱いとなり、学校生活にも変化が出てきています。これまで感染予防の観点から、児童が3密を避ける必要があるために、いろいろな活動が制限されてきました。体育でのバスケットボールや音楽での合唱、各教科におけるグループでの話し合い活動もその一つです。昨年度からそれらの制限が徐々に解除されつつあり、5月8日以降、留意しながらではありますが、ほぼ、コロナ禍以前のように学習できるようになりました。

一方、コロナの影響により、当初の計画より迅速に推進されたこともあります。GIGAスクール構想に基づいた一人1端末の貸与は、それにあたります。現在では、ドリル学習や調べ学習、発表の資料作成、意見の交流など、様々な場面で学習に欠かせないものになってきています。昨年度の全国学力・学習状況調査においても、本校でのICTの活用状況（タブレット等を週3回以上使用する）は全国平均を10%程上回るものでした。子どもたちのタブレットを活用した学習への意欲は高いものがあります。

加えて、今年度、高学年の児童用のデジタル教科書が試験的に導入されました。算数、英語、社会の3教科です。図形の作図の仕方を動画で確認する、英語の発音を繰り返し聞く、興味のある資料を拡大して見るなど、授業の中で、また、家庭学習においても、一人ひとりの児童の必要に合わせた活用ができるのではないかと期待が膨らみます。

反面、「先生、ググればいいよ。」こんな児童の言葉を聞くと、身の引き締まる思いがします。自分自身も安易に答えを求めてしまうことがあるからです。考えることや試行錯誤して結果を得ることの達成感、自己肯定感や次への意欲につながります。

コロナ禍での日々を過ごす中で、教育現場でも大きな変化がありました。ICT機器の活用など今後も取り入れていくとよいものもあれば、補って磨いていく必要のあるものもあると感じています。制限されていたことで十分できなかった話し合い活動は、ぜひ磨いていきたいものの一つです。相手の表情を見て、言葉を吟味し、考えを交流することは、より分かり合え、世界を広げ、学びを深めていく喜びを感じることにもつながります。これからも、タブレットを道具の一つとしてうまく活用しながら、学びを深めていける授業づくりに励んでいきたいと考えています。

<PTAから資源回収のお知らせ>

4月収益金 24,110円

5月収益金 19,010円

☆ご協力ありがとうございました。

次回は6月28日（水）です。

【150周年を記念する横断幕】

